

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	沼津工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科	夜・通信			19	19	7	
	電気電子工学科	夜・通信			12	12	7	
	電子制御工学科	夜・通信			17	17	7	
	制御情報工学科	夜・通信			27	27	7	
	物質工学科	夜・通信			14	14	7	
	総合システム工学専攻環境エネルギー工学コース	夜・通信		21	6	27	7	
	総合システム工学専攻新機能材料工学コース	夜・通信		21	2	23	7	
	総合システム工学専攻医療福祉機器開発工学コース	夜・通信		21	4	25	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=22&lang=ja

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	沼津工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/yakuin.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月 1日～2026 年3月31日	理事長
常勤	九州大学大学院総合理 工学府長・研究院長	2024年4月 1日～2026 年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月 1日～2026 年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	沼津工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
国立高専統一の Web シラバスシステムに基づき、統一の様式に則り、授業形態・到達目標・ルーブリック(成績評価基準表)・授業科目の概要や内容、方法、注意点・授業計画・評価割合を記載している。例年、前年12月～翌年1月にかけてシラバスを作成しており、作成完了後、年度初めの4月1日に国立高専が統一してインターネットにより公開している。	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=22&lang=ja
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
「沼津工業高等専門学校学則」、「沼津工業高等専門学校学業成績評価並びに進級・卒業認定等に関する規則」及び「沼津工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則」に則り、授業計画(シラバス)にてあらかじめ周知されている評価割合に基づき、厳格かつ適正に単位授与または履修認定を実施している。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本科では、客観的な指標としてG P Aを導入している。 G P Aを算出するため、評語に応じたグレードポイント(以下「G P」という。)を定めており、(評語S及びAはG P 4、評語BはG P 2、評語CはG P 1、評語DはG P 0)以下の計算式により算出している(小数点以下第3位を四捨五入)。 $G P A = (\text{履修科目の} G P \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和} / \text{履修単位数(不合格科目を含む)の合計}$ なお、外部修得科目等認定科目については、G P Aの計算から除外している。 専攻科では成績を、S(90点以上)、A(80点以上90点未満)、B(70点以上80点未満)、C(60点以上70点未満)及びD(60点未満)の5種の評語をもって表し、評語と評価点の相互換算を4点満点(S:4点、A:4点、B:2点、C:1点、D:0点)の評価点で表すことにより、成績分布把握を行っている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.numazu-ct.ac.jp/wp-content/uploads/2025/04/R07handbook.pdf (p106-p112)
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【本科】

学則で定める修業年限以上在籍し、全課程を修了して以下の能力を身につけ、167 単位以上（一般科目 75 単位以上、専門科目 82 単位以上）を修得した学生の卒業を認定する。

- ・A【倫理力】工学倫理に基づいて、社会問題に対する技術者の社会的責任を説明できる能力
- ・B【基礎学力】数学、自然科学、情報科学・技術の知識を社会の要請に応じて活用する能力
- ・C【専門力】工学分野の専門的知識を課題解決のために創造的に活用する能力
- ・D【コミュニケーション力】多様な価値観の中で専門性を発揮し、コミュニケーションを取れる能力
- ・E【実践力】実践的技術者として自身の役割を自覚し、計画的に課題解決学習や実験実習、および研究活動に取り組む能力

各学科の人材像は以下に示すとおりである。

機械工学科

機械や装置ならびにこれらに関連するシステムの開発・設計・製造の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者

電気電子工学科

電気エネルギー・エレクトロニクス・情報通信の開発・設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者

電子制御工学科

電気・機械・情報工学のシステム統合技術の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者

制御情報工学科

コンピュータを応用したシステムの設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者

物質工学科

化学工業・ファインケミカル・食品工業等の生産技術や研究開発の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者

【専攻科】

学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位修得条件の下で合計 62 単位以上を修得した学生の修了を認定する。

A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力和多面的考察力

・(A-1)「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力。

・(A-2)「工学倫理」及び「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力。

B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢

・(B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力。

C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力

・(C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工

学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力。 ・(C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力。 ・(C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力。 D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力 ・(D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力。 ・(D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力。 E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢 ・(E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力。 ・(E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力。 各コースの人材像は以下に示すとおりである。 環境エネルギー工学コース 機械、電気電子、情報、応用物質などの工学分野を融合複合した環境・エネルギー分野を中心に深く学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者 新機能材料工学コース 機械、電気電子、情報、応用物質などの工学分野の基盤となる金属、セラミックス材料、高分子材料、生体材料などを深く学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者 医療福祉機器開発工学コース 機械、電気電子、情報、応用物質などの工学分野を基盤とし、解剖生理学、医用生体工学など医工学分野を深く学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.numazu-ct.ac.jp/college/threepolicy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	沼津工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR5.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR5.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R5jigyohoukoku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
監事による監査報告(書)	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R5jikotennkennhyouka.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和7年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:学校ウェブサイト https://www.numazu-ct.ac.jp/college/evaluation

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法：学校ウェブサイト <https://www.numazu-ct.ac.jp/college/evaluation>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.numazu-ct.ac.jp/college/policy/)
(概要) 「人がらのよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」を教育理念とし、「豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて科学と技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成」を教育目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)
(概要) 学則で定める修業年限以上在籍し、全課程を修了して以下の能力を身につけ、167 単位以上（一般科目 75 単位以上、専門科目 82 単位以上）を修得した学生の卒業を認定する。 ・A【倫理力】工学倫理に基づいて、社会問題に対する技術者の社会的責任を説明できる能力 ・B【基礎学力】数学、自然科学、情報科学・技術の知識を社会の要請に応じて活用する能力 ・C【専門力】工学分野の専門的知識を課題解決のために創造的に活用する能力 ・D【コミュニケーション力】多様な価値観の中で専門性を発揮し、コミュニケーションを取れる能力 ・E【実践力】実践的技術者として自身の役割を自覚し、計画的に課題解決学習や実験実習、および研究活動に取り組む能力 各学科の人材像は以下に示すとおりである。 機械工学科 機械や装置ならびにこれらに関連するシステムの開発・設計・製造の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)
(概要) ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を養成するため、以下の方針に従ってカリキュラムを編成する。国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム (MCC) に示された学習内容の実施と到達目標の達成が必修科目の修得だけで可能となるように配慮する。また、社会の多様なニーズに応えるために、各学科の特色や強みに関する科目（必修科目及び選択科目）を適切に配置する。 ・A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、

技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を身につけるため、人文・社会科学（社会）に関する科目を配置する。

・B 数学、自然科学及び情報科学・技術の知識を応用できる能力を身につけるため、数学及び自然科学（物理・化学）、情報基礎に関する科目に加え、各専門分野に関する専門基礎科目を配置する。

・C 工学分野の専門的知識を課題解決のために創造的に活用する能力を身につけるため、各専門分野に関する専門応用科目を配置する。

・D 多様な価値観の中で専門性を発揮し、コミュニケーションを取れる能力を身につけるため、人文・社会科学（国語・外国語）に関する科目、及び科学・技術系英語に関する科目を配置する。

・E 実践的技術者として組織・チームの中で自身の役割を自覚し、主体的かつ計画的に行動して課題解決学習や実験・実習・演習及び研究活動に取り組む能力を身につけるため、実技系科目を配置する。

なお、卒業研究はディプロマ・ポリシーに掲げたすべての能力を身につけるための科目として位置づけられている。

各学科の育成する人材像に基づき、以下のとおり編成方針を示す。

機械工学科

機械系分野のMCC準拠科目を含めて、設計・製図、機械工作、機械・材料・熱流体の力学、制御・情報工学などの知識や技術を修得できる科目を配置する。

授業の実施と学修成果の評価の方針は以下に示すとおりである。

科目毎に到達目標、実施方法（授業計画を含む）、評価方法を定め、年度初めに公開する。学習成果の評価（成績評価）は100点法に基づくものとし、60点以上を合格として所定の単位を認定する。

1. 講義科目においては、主に試験（定期試験、小試験等）の結果や課題レポートなどの平常の取り組み状況に基づいて総合評価を行う。
2. 実験・実習・演習（PBL科目含む）および卒業研究などの実技系科目・実践的科目においては、取り組み状況、成果報告または論文、発表などに基づいて総合評価を行う。

評語で表わす場合は、S（秀）：100～90点、A（優）：89～80点、B（良）：79～70点、C（可）：69～60点、D（不可）：60点未満とする。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy>）

（概要）

以下の意欲及び学力を有する者を、推薦選抜においては、調査書、推薦書、個人面接により、学力選抜においては、学力検査、調査書により、帰国生徒学力選抜においては、学力検査、調査書、エントリーシート、個人面接により、編入学選抜においては、学力検査、調査書、個人面接により確認し、受け入れる。

1. 他人の意見を尊重し、社会の規範を守る者。
2. 科学・技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者。
3. 豊かな教養と専門知識や技術を幅広く身につけたい者。
4. 多様な価値観を受け入れ、自らの考えを表現できる者。
5. 将来、科学者・技術者として地域・社会の発展に貢献する意欲の有る者。

学力の三要素（受け入れる学生に求める学習成果）との対応関係は以下に示すとおりである。

「知識・技能」 1、2

「思考力・判断力・表現力」 1、3、4

「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」 1、3、4、5

学部等名 電気電子工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.numazu-ct.ac.jp/college/policy/ ）
（概要） 「人がらのよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」を教育理念とし、「豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて科学と技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成」を教育目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy ）
（概要） 学則で定める修業年限以上在籍し、全課程を修了して以下の能力を身につけ、167 単位以上（一般科目 75 単位以上、専門科目 82 単位以上）を修得した学生の卒業を認定する。 ・A【倫理力】工学倫理に基づいて、社会問題に対する技術者の社会的責任を説明できる能力 ・B【基礎学力】数学、自然科学、情報科学・技術の知識を社会の要請に応じて活用する能力 ・C【専門力】工学分野の専門的知識を課題解決のために創造的に活用する能力 ・D【コミュニケーション力】多様な価値観の中で専門性を発揮し、コミュニケーションを取れる能力 ・E【実践力】実践的技術者として自身の役割を自覚し、計画的に課題解決学習や実験実習、および研究活動に取り組む能力 各学科の人材像は以下に示すとおりである。 電気電子工学科 電気エネルギー・エレクトロニクス・情報通信の開発・設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy ）
（概要） ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を養成するため、以下の方針に従ってカリキュラムを編成する。国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム（MCC）に示された学習内容の実施と到達目標の達成が必修科目の修得だけで可能となるように配慮する。また、社会の多様なニーズに応えるために、各学科の特色や強みに関する科目（必修科目及び選択科目）を適切に配置する。 ・A 技術と自然や社会との関わりや技術に関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を身につけるため、人文・社会科学（社会）に関する科目を配置する。 ・B 数学、自然科学及び情報科学・技術の知識を応用できる能力を身につけるため、数学及び自然科学（物理・化学）、情報基礎に関する科目に加え、各専門分野に関する専門基礎科目を配置する。 ・C 工学分野の専門的知識を課題解決のために創造的に活用する能力を身につけるため、各専門分野に関する専門応用科目を配置する。 ・D 多様な価値観の中で専門性を発揮し、コミュニケーションを取れる能力を身につけるため、人文・社会科学（国語・外国語）に関する科目、及び科学・技術系英語に関する科目を配置する。 ・E 実践的技術者として組織・チームの中で自身の役割を自覚し、主体的かつ計画的に行

動して課題解決学習や実験・実習・演習及び研究活動に取り組む能力を身につけるため、実技系科目を配置する。 なお、卒業研究はディプロマ・ポリシーに掲げたすべての能力を身につけるための科目として位置づけられている。 各学科の育成する人材像に基づき、以下のとおり編成方針を示す。 電気電子工学科 電気・電子系分野の MCC 準拠科目を含めて、回路設計、電力変換、制御システム、情報通信、デバイスの知識や技術を修得できる科目を配置する。 授業の実施と学修成果の評価の方針は以下に示すとおりである。 科目毎に到達目標、実施方法（授業計画を含む）、評価方法を定め、年度初めに公開する。 学習成果の評価（成績評価）は 100 点法に基づくものとし、60 点以上を合格として所定の単位を認定する。 1. 講義科目においては、主に試験（定期試験、小試験等）の結果や課題レポートなどの平常の取り組み状況に基づいて総合評価を行う。 2. 実験・実習・演習（PBL 科目含む）および卒業研究などの実技系科目・実践的科目においては、取り組み状況、成果報告または論文、発表などに基づいて総合評価を行う。 評語で表わす場合は、S（秀）：100～90 点、A（優）：89～80 点、B（良）：79～70 点、C（可）：69～60 点、D（不可）：60 点未満とする。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy）
（概要） 以下の意欲及び学力を有する者を、推薦選抜においては、調査書、推薦書、個人面接により、学力選抜においては、学力検査、調査書により、帰国生徒学力選抜においては、学力検査、調査書、エントリーシート、個人面接により、編入学選抜においては、学力検査、調査書、個人面接により確認し、受け入れる。 1. 他人の意見を尊重し、社会の規範を守る者。 2. 科学・技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者。 3. 豊かな教養と専門知識や技術を幅広く身につけたい者。 4. 多様な価値観を受け入れ、自らの考えを表現できる者。 5. 将来、科学者・技術者として地域・社会の発展に貢献する意欲の有る者。 学力の三要素（受け入れる学生に求める学習成果）との対応関係は以下に示すとおりである。 「知識・技能」 1、2 「思考力・判断力・表現力」 1、3、4 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」 1、3、4、5

学部等名 電子制御工学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.numazu-ct.ac.jp/college/policy/）
（概要） 「人がらのよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」を教育理念とし、「豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて科学と技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成」を教育目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy）

(概要) 学則で定める修業年限以上在籍し、全課程を修了して以下の能力を身につけ、167 単位以上（一般科目 75 単位以上、専門科目 82 単位以上）を修得した学生の卒業を認定する。 ・A【倫理力】工学倫理に基づいて、社会問題に対する技術者の社会的責任を説明できる能力 ・B【基礎学力】数学、自然科学、情報科学・技術の知識を社会の要請に応じて活用する能力 ・C【専門力】工学分野の専門的知識を課題解決のために創造的に活用する能力 ・D【コミュニケーション力】多様な価値観の中で専門性を発揮し、コミュニケーションを取れる能力 ・E【実践力】実践的技術者として自身の役割を自覚し、計画的に課題解決学習や実験実習、および研究活動に取り組む能力 各学科の人材像は以下に示すとおりである。 電子制御工学科 電気・機械・情報工学のシステム統合技術の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)
(概要) ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を養成するため、以下の方針に従ってカリキュラムを編成する。国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム（MCC）に示された学習内容の実施と到達目標の達成が必修科目の修得だけで可能となるように配慮する。また、社会の多様なニーズに応えるために、各学科の特色や強みに関する科目（必修科目及び選択科目）を適切に配置する。 ・A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を身につけるため、人文・社会科学（社会）に関する科目を配置する。 ・B 数学、自然科学及び情報科学・技術の知識を応用できる能力を身につけるため、数学及び自然科学（物理・化学）、情報基礎に関する科目に加え、各専門分野に関する専門基礎科目を配置する。 ・C 工学分野の専門的知識を課題解決のために創造的に活用する能力を身につけるため、各専門分野に関する専門応用科目を配置する。 ・D 多様な価値観の中で専門性を発揮し、コミュニケーションを取れる能力を身につけるため、人文・社会科学（国語・外国語）に関する科目、及び科学・技術系英語に関する科目を配置する。 ・E 実践的技術者として組織・チームの中で自身の役割を自覚し、主体的かつ計画的に行動して課題解決学習や実験・実習・演習及び研究活動に取り組む能力を身につけるため、実技系科目を配置する。 なお、卒業研究はディプロマ・ポリシーに掲げたすべての能力を身につけるための科目として位置づけられている。 各学科の育成する人材像に基づき、以下のとおり編成方針を示す。 電子制御工学科 電気・電子系分野と情報系分野の複合領域の MCC 準拠科目を含めて、ロボット制御、データサイエンス、システム統合の知識や技術を修得できる科目を配置する。 授業の実施と学修成果の評価の方針は以下に示すとおりである。 科目毎に到達目標、実施方法（授業計画を含む）、評価方法を定め、年度初めに公開する。

学習成果の評価（成績評価）は100点法に基づくものとし、60点以上を合格として所定の単位を認定する。 1. 講義科目においては、主に試験（定期試験、小試験等）の結果や課題レポートなどの平常の取り組み状況に基づいて総合評価を行う。 2. 実験・実習・演習（PBL科目含む）および卒業研究などの実技系科目・実践的科目においては、取り組み状況、成果報告または論文、発表などに基づいて総合評価を行う。 評語で表わす場合は、S（秀）：100～90点、A（優）：89～80点、B（良）：79～70点、C（可）：69～60点、D（不可）：60点未満とする。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy）
（概要） 以下の意欲及び学力を有する者を、推薦選抜においては、調査書、推薦書、個人面接により、学力選抜においては、学力検査、調査書により、帰国生徒学力選抜においては、学力検査、調査書、エントリーシート、個人面接により、編入学選抜においては、学力検査、調査書、個人面接により確認し、受け入れる。 1. 他人の意見を尊重し、社会の規範を守る者。 2. 科学・技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者。 3. 豊かな教養と専門知識や技術を幅広く身につけたい者。 4. 多様な価値観を受け入れ、自らの考えを表現できる者。 5. 将来、科学者・技術者として地域・社会の発展に貢献する意欲の有る者。 学力の三要素（受け入れる学生に求める学習成果）との対応関係は以下に示すとおりである。 「知識・技能」 1、2 「思考力・判断力・表現力」 1、3、4 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」 1、3、4、5

学部等名 制御情報工学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.numazu-ct.ac.jp/college/policy/）
（概要） 「人がらのよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」を教育理念とし、「豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて科学と技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成」を教育目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy）
（概要） 学則で定める修業年限以上在籍し、全課程を修了して以下の能力を身につけ、167単位以上（一般科目75単位以上、専門科目82単位以上）を修得した学生の卒業を認定する。 ・A【倫理力】工学倫理に基づいて、社会問題に対する技術者の社会的責任を説明できる能力 ・B【基礎学力】数学、自然科学、情報科学・技術の知識を社会の要請に応じて活用する能力 ・C【専門力】工学分野の専門的知識を課題解決のために創造的に活用する能力 ・D【コミュニケーション力】多様な価値観の中で専門性を発揮し、コミュニケーションを取れる能力

・E【実践力】実践的技術者として自身の役割を自覚し、計画的に課題解決学習や実験実習、および研究活動に取り組む能力

各学科の人材像は以下に示すとおりである。

制御情報工学科

コンピュータを応用したシステムの設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy>)

(概要)

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を養成するため、以下の方針に従ってカリキュラムを編成する。国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム(MCC)に示された学習内容の実施と到達目標の達成が必修科目の修得だけで可能となるように配慮する。また、社会の多様なニーズに応えるために、各学科の特色や強みに関する科目(必修科目及び選択科目)を適切に配置する。

・A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を身につけるため、人文・社会科学(社会)に関する科目を配置する。

・B 数学、自然科学及び情報科学・技術の知識を応用できる能力を身につけるため、数学及び自然科学(物理・化学)、情報基礎に関する科目に加え、各専門分野に関する専門基礎科目を配置する。

・C 工学分野の専門的知識を課題解決のために創造的に活用する能力を身につけるため、各専門分野に関する専門応用科目を配置する。

・D 多様な価値観の中で専門性を発揮し、コミュニケーションを取れる能力を身につけるため、人文・社会科学(国語・外国語)に関する科目、及び科学・技術系英語に関する科目を配置する。

・E 実践的技術者として組織・チームの中で自身の役割を自覚し、主体的かつ計画的に行動して課題解決学習や実験・実習・演習及び研究活動に取り組む能力を身につけるため、実技系科目を配置する。

なお、卒業研究はディプロマ・ポリシーに掲げたすべての能力を身につけるための科目として位置づけられている。

各学科の育成する人材像に基づき、以下のとおり編成方針を示す。

制御情報工学科

情報系分野と電気・電子系分野の複合領域のMCC準拠科目を含めて、理工学基礎、プログラミング、コンピュータサイエンス、情報システムなど、情報工学/情報科学の普遍的な知識や技術を修得できる科目を配置する。

授業の実施と学修成果の評価の方針は以下に示すとおりである。

科目毎に到達目標、実施方法(授業計画を含む)、評価方法を定め、年度初めに公開する。学習成果の評価(成績評価)は100点法に基づくものとし、60点以上を合格として所定の単位を認定する。

1. 講義科目においては、主に試験(定期試験、小試験等)の結果や課題レポートなどの平常の取り組み状況に基づいて総合評価を行う。
2. 実験・実習・演習(PBL科目含む)および卒業研究などの実技系科目・実践的科目においては、取り組み状況、成果報告または論文、発表などに基づいて総合評価を行う。

評語で表わす場合は、S(秀):100~90点、A(優):89~80点、B(良):79~70点、C(可):69~60点、D(不可):60点未満とする。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy>)

(概要) 以下の意欲及び学力を有する者を、推薦選抜においては、調査書、推薦書、個人面接により、学力選抜においては、学力検査、調査書により、帰国生徒学力選抜においては、学力検査、調査書、エントリーシート、個人面接により、編入学選抜においては、学力検査、調査書、個人面接により確認し、受け入れる。 1. 他人の意見を尊重し、社会の規範を守る者。 2. 科学・技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者。 3. 豊かな教養と専門知識や技術を幅広く身につけたい者。 4. 多様な価値観を受け入れ、自らの考えを表現できる者。 5. 将来、科学者・技術者として地域・社会の発展に貢献する意欲の有る者。 学力の三要素（受け入れる学生に求める学習成果）との対応関係は以下に示すとおりである。 「知識・技能」 1、2 「思考力・判断力・表現力」 1、3、4 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」 1、3、4、5
--

学部等名 物質工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.numazu-ct.ac.jp/college/policy/ ）
(概要) 「人がらのよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」を教育理念とし、「豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて科学と技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成」を教育目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy ）
(概要) 学則で定める修業年限以上在籍し、全課程を修了して以下の能力を身につけ、167 単位以上（一般科目 75 単位以上、専門科目 82 単位以上）を修得した学生の卒業を認定する。 ・A【倫理力】工学倫理に基づいて、社会問題に対する技術者の社会的責任を説明できる能力 ・B【基礎学力】数学、自然科学、情報科学・技術の知識を社会の要請に応じて活用する能力 ・C【専門力】工学分野の専門的知識を課題解決のために創造的に活用する能力 ・D【コミュニケーション力】多様な価値観の中で専門性を発揮し、コミュニケーションを取れる能力 ・E【実践力】実践的技術者として自身の役割を自覚し、計画的に課題解決学習や実験実習、および研究活動に取り組む能力 各学科の人材像は以下に示すとおりである。 物質工学科 化学工業・ファインケミカル・食品工業等の生産技術や研究開発の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy ）

(概要) ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を養成するため、以下の方針に従ってカリキュラムを編成する。国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラム(MCC)に示された学習内容の実施と到達目標の達成が必修科目の修得だけで可能となるように配慮する。また、社会の多様なニーズに応えるために、各学科の特色や強みに関する科目(必修科目及び選択科目)を適切に配置する。 ・A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を身につけるため、人文・社会科学(社会)に関する科目を配置する。 ・B 数学、自然科学及び情報科学・技術の知識を応用できる能力を身につけるため、数学及び自然科学(物理・化学)、情報基礎に関する科目に加え、各専門分野に関する専門基礎科目を配置する。 ・C 工学分野の専門的知識を課題解決のために創造的に活用する能力を身につけるため、各専門分野に関する専門応用科目を配置する。 ・D 多様な価値観の中で専門性を発揮し、コミュニケーションを取れる能力を身につけるため、人文・社会科学(国語・外国語)に関する科目、及び科学・技術系英語に関する科目を配置する。 ・E 実践的技術者として組織・チームの中で自身の役割を自覚し、主体的かつ計画的に行動して課題解決学習や実験・実習・演習及び研究活動に取り組む能力を身につけるため、実技系科目を配置する。 なお、卒業研究はディプロマ・ポリシーに掲げたすべての能力を身につけるための科目として位置づけられている。 各学科の育成する人材像に基づき、以下のとおり編成方針を示す。 物質工学科 化学・生物系分野のMCC準拠科目を含めて、分析化学、無機化学、物理化学、有機化学、生物化学、化学工学の知識や技術を修得できる科目を配置する。 授業の実施と学修成果の評価の方針は以下に示すとおりである。 科目毎に到達目標、実施方法(授業計画を含む)、評価方法を定め、年度初めに公開する。学習成果の評価(成績評価)は100点法に基づくものとし、60点以上を合格として所定の単位を認定する。 1. 講義科目においては、主に試験(定期試験、小試験等)の結果や課題レポートなどの平常の取り組み状況に基づいて総合評価を行う。 2. 実験・実習・演習(PBL科目含む)および卒業研究などの実技系科目・実践的科目においては、取り組み状況、成果報告または論文、発表などに基づいて総合評価を行う。 評語で表わす場合は、S(秀):100~90点、A(優):89~80点、B(良):79~70点、C(可):69~60点、D(不可):60点未満とする。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法:http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy)
(概要) 以下の意欲及び学力を有する者を、推薦選抜においては、調査書、推薦書、個人面接により、学力選抜においては、学力検査、調査書により、帰国生徒学力選抜においては、学力検査、調査書、エントリーシート、個人面接により、編入学選抜においては、学力検査、調査書、個人面接により確認し、受け入れる。 1. 他人の意見を尊重し、社会の規範を守る者。 2. 科学・技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者。 3. 豊かな教養と専門知識や技術を幅広く身につけたい者。 4. 多様な価値観を受け入れ、自らの考えを表現できる者。 5. 将来、科学者・技術者として地域・社会の発展に貢献する意欲の有る者。 学力の三要素(受け入れる学生に求める学習成果)との対応関係は以下に示すとおりである。

る。
「知識・技能」 1、2
「思考力・判断力・表現力」 1、3、4
「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」 1、3、4、5

学部等名 専攻科 総合システム工学専攻

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.numazu-ct.ac.jp/department/a/>）

（概要）

高等専門学校の教育における成果をふまえ、研究指導を通じた工学に関する深い専門性をもとに、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに、産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い、もって地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的としている。

卒業又は修了の認定に関する方針

（公表方法：<http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy>）

（概要）

学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位修得条件の下で合計 62 単位以上を修得した学生の修了を認定する。

A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力和多面的考察力

- ・（A-1）「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力。
- ・（A-2）「工学倫理」及び「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力。

B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢

- ・（B-1）数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力。

C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力

- ・（C-1）機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力。
- ・（C-2）工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力。
- ・（C-3）社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力。

D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力

- ・（D-1）日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力。
- ・（D-2）自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力。

E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢

- ・（E-1）工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力。
- ・（E-2）日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に

目を通して実務に応用することができる能力。

各コースの人材像は以下に示すとおりである。

環境エネルギー工学コース

機械、電気電子、情報、応用物質などの工学分野を融合複合した環境・エネルギー分野を中心に深く学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者

新機能材料工学コース

機械、電気電子、情報、応用物質などの工学分野の基盤となる金属、セラミックス材料、高分子材料、生体材料などを深く学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者

医療福祉機器開発工学コース

機械、電気電子、情報、応用物質などの工学分野を基盤とし、解剖生理学、医用生体工学など医工学分野を深く学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy>)

(概要)

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を養成するため、以下の方針に従ってカリキュラムを編成する。

A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力

・(A-1)「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力を身につけるため、一般科目(人文社会科学系)、コース専門科目(環境エネルギー工学系)でLevel4(分析レベル)までを身につける。

・(A-2)「工学倫理」及び「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力を身につけるため、一般科目(工学倫理)、コース専門科目(環境エネルギー工学系、医療福祉機器開発工学系)、専門共通科目(知的財産)でLevel4(分析レベル)までを身につける。

B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える能力

・(B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力を身につけるため、専門共通科目(数学、自然科学系)、コース専門科目(新機能材料工学系)、専門展開科目(選択)でLevel4(分析レベル)までを身につける。

C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力

・(C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力を身につけるため、コース専門科目(環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系)、専門展開科目(選択科目)でLevel4(分析レベル)までを身につける。

・(C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力を身につけるため、専門展開科目(専攻科学研究Ⅰ、Ⅱ)でLevel4(分析レベル)までを身につける。

・(C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力を身につけるため、専門展開科目(選択)、コース専門科目(環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系)でLevel4(分析レベル)までを身につける。

D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力

・(D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力を身につけるため、専門展開科目(専攻科学研究Ⅰ、Ⅱ)でLevel4(分析レベル)

までを身につける。

・(D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力を身につけるため、一般科目（語学系）、専門展開科目（専攻科学研究Ⅱ）で Level4（分析レベル）までを身につける。

E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢

・(E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力を身につけるため、専門展開科目（学外実習、実践工学演習、専攻科実験）で Level4（分析レベル）までを身につける。

・(E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科学研究Ⅰ、Ⅱ）で Level4（分析レベル）」までを身につける。

各コースの育成する人材像に基づき、以下のとおり編成方針を示す。

環境エネルギー工学コース

機械、電気電子、情報、応用物質などの工学分野を融合複合した、環境と新エネルギー、エネルギー変換工学及びエネルギー応用工学を中心に深く学修し、A-1, A-2, C-1, C-3 に対応した能力を修得できる科目を配置する。それ以外の能力を修得できる科目を一般科目、専門共通科目、専門展開科目として配置する。

新機能材料工学コース

機械、電気電子、情報、応用物質などの工学分野の基盤となる金属、セラミックス材料、高分子材料、生体材料の構造や物性、材料設計製作法について包括的に学修し、B-1, C-1, C-3 に対応した能力を修得できる科目を配置する。それ以外の能力を修得できる科目を一般科目、専門共通科目、専門展開科目として配置する。

医療福祉機器開発工学コース

機械、電気電子、情報、応用物質などの工学分野並びに解剖生理学、医用生体工学など医工学分野を融合複合した、医用機器工学、福祉機器工学などを中心に深く学修し、A-2, C-1, C-3 に対応した能力を修得できる科目を配置する。それ以外の能力を修得できる科目を一般科目、専門共通科目、専門展開科目として配置する。

教育課程表は以下の方針に従って編成する。

1. 教育課程を一般科目、コース専門科目、専門共通科目、専門展開科目から編成する。
2. 一般科目として必修科目（工学倫理、語学系）と選択科目（人文社会科学系）を配置し、必修 8 単位のほか、選択 2 単位以上を修得する。
3. コース専門科目として選択科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）を配置し、所属コースのコース専門科目を 10 単位以上修得する。
4. 専門共通科目として必修科目（知的財産）と選択科目（数学、自然科学系）を配置し、必修 2 単位のほか、選択 6 単位以上を修得する。
5. 専門展開科目として必修科目（専攻科学研究Ⅰ・Ⅱ、専攻科実験、学外実習、実践工学演習）と選択科目を配置し、必修 24 単位のほか、選択 10 単位以上を修得する。
6. 設計・システム系科目群、情報・論理系科目群、材料・バイオ系科目群、力学系科目群、および社会・技術系科目群の 5 科目群に分類される科目を配置し、合計 6 科目以上、各群から 1 科目以上を修得する。
7. ディプロマ・ポリシーに示される各能力に対応する科目を配置し、それぞれ 1 科目以上修得する。

授業の実施と学修成果の評価の方針は以下に示すとおりである。

科目毎に到達目標、実施方法（授業計画を含む）、評価方法を定め、年度初めに公開する。授業科目の成績は、S、A、B、C 及び D の 5 種の評語をもって表し、S、A、B 及び C を合格とする。評語と評価点の相互換算は、S（秀）：90 点以上、A（優）：80 点以上 90 点未満、B（良）：70 点以上 80 点未満、C（可）：60 点以上 70 点未満、D（不可）：60 点未満とする。

1. 成績は、当該学期の試験の成績及び平素の成績並びに出席状況等を総合して決定するものとする。 2. 実習の成績評価は、沼津工業高等専門学校専攻科学外実習規則によるものとする。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/infomation/threepolicy) (概要) 以下の意欲、学力及び経験を有する者を、推薦選抜においては、個人面接、自己申告書、成績証明書により、学力選抜においては、学力検査、個人面接、自己申告書、成績証明書、TOEIC スコアにより確認し、受け入れる。 1. 広い視野と深い専門性を身につけて、社会の発展、公衆の福祉に寄与する意欲を有する。 2. 工学教育を受けるために必要な数学、自然科学及び英語の学力を有する。 3. 基礎的な工学について、一定の指導と訓練を受け、実践した経験を有する。 学力の三要素（受け入れる学生に求める学習成果）との対応関係は以下に示すとおりである。 「知識・技能」1、2、3 「思考力・判断力・表現力」1、2 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」1、3

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.numazu-ct.ac.jp/college/organization/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1 人	—					1 人
教養科	—	8 人	9 人	人	5 人	人	22 人
機械工学科	—	3 人	4 人	人	2 人	人	9 人
電気電子工学科	—	3 人	4 人	人	2 人	人	9 人
電子制御工学科	—	6 人	1 人	人	2 人	人	9 人
制御情報工学科	—	4 人	5 人	人	人	人	9 人
物質工学科	—	6 人	4 人	人	人	人	10 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		39 人					39 人

各教員の有する 学位及び業績 (教員データベ ース等)	https://research.kosen-k.go.jp/plugin/rmaps/index/11/122?search_keyword=%E6%B2%BC%E6%B4%A5%E5%B7%A5%E6%A5%AD%E9%AB%98%E7%AD%89%E5%B0%82%E9%96%80%E5%AD%A6%E6%A0%A1&name=&area=&affiliation=&section=&job_title=&seeds_free_word=&discipline=&research_field=
c. F D (ファカルティ・ディベロップメント) の状況 (任意記載事項)	

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに
進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40 人	43 人	107.5%	200 人	202 人	101%	若干名	0 人
電気電子工学 科	40 人	42 人	105%	200 人	205 人	102.5%	若干名	0 人
電子制御工学 科	40 人	41 人	102.5%	200 人	205 人	102.5%	若干名	0 人
制御情報工学 科	40 人	41 人	102.5%	200 人	208 人	104%	若干名	0 人
物質工学科	40 人	42 人	105%	200 人	205 人	102.5%	若干名	0 人
専攻科	24 人	27 人	112.5%	48 人	53 人	110.4%		
合計	224 人	236 人	105.4%	1048 人	1078 人	102.9%	若干名	0 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	34 人 (100%)	7 人 (20.6%)	27 人 (79.4%)	0 人 (0.0%)
電気電子工学 科	38 人 (100%)	11 人 (28.9%)	24 人 (63.2%)	3 人 (7.9%)
電子制御工学 科	36 人 (100%)	19 人 (52.8%)	13 人 (36.1%)	4 人 (11.1%)
制御情報工学 科	37 人 (100%)	15 人 (40.5%)	19 人 (51.4%)	3 人 (8.1%)
物質工学科	35 人 (100%)	16 人 (45.7%)	19 人 (54.3%)	0 人 (0.0%)
専攻科	30 人 (100%)	11 人 (36.7%)	16 人 (53.3%)	3 人 (10.0%)
合計	210 人 (100%)	79 人 (37.6%)	118 人 (56.2%)	13 人 (6.2%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項) (本科) 豊橋技術科学大学、東京大学、東北大学、岐阜大学、福井大学、信州大学、長岡技術科学大学、金沢大学、東京科学大学、北海道大学、横浜国立大学、広島大学、筑波大学、名古屋大学、茨城大学、東京都立大学、奈良女子大学、東京農工大学、高知大学、大阪公立大学、岡山大学、沼津工業高等専門学校専攻科、ヤマハモーターエンジニアリング株式会社、サントリー株式会社、パナソニック株式会社、花王株式会社、東レ株式会社、京セラ株式会社、三菱重工業株式会社、旭化成株式会社、スズキ株式会社、株式会社ニコン、キャノン株式会社、浜松ホトニクス株式会社、関西電力株式会社、矢崎総業株式会社、アステラス製薬株式会社、株式会社タカラトミー、株式会社明電舎、中外製薬株式会社、コニカミノルタ株式会社、富士フイルム株式会社、株式会社日立ハイテクサイエンス、アマゾンジャパン合同会社 (専攻科) 名古屋大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、九州大学大学院、北海道大学大学院、京都工芸繊維大学大学院、東京農工大学大学院、豊橋技術科学大学大学院、森永製菓株式会社、コニカミノルタ株式会社、テルモ株式会社、スター精密株式会社、横浜ゴム株式会社、ヤマハ発動機株式会社、矢崎総業株式会社、興和株式会社、東京エレクトロングループ、株式会社 LINX、株式会社日立ハイシステム 21 (備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 国立高専統一の Web シラバスシステムに基づき、統一の様式に則り、授業形態・到達目標・ルーブリック (成績評価基準表)・授業科目の概要や内容、方法、注意点・授業計画・評価割合を記載している。例年、前年 1 2 月～翌年 1 月にかけてシラバスを作成しており、作成完了後、年度初めの 4 月 1 日に国立高専が統一してインターネットにより公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

「沼津工業高等専門学校学則」、「沼津工業高等専門学校学業成績評価並びに進級・卒業認定等に関する規則」及び「沼津工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則」に則り、授業計画（シラバス）にてあらかじめ周知されている評価割合に基づき、厳格かつ適正に単位授与または履修認定を実施している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位	有	単位
	電気電子工学科	167 単位	有	単位
	電子制御工学科	167 単位	有	単位

	制御情報工学科	167 単位	有	単位
	物質工学科	167 単位	有	単位
	専攻科 総合システム工学専攻	62 単位	有	各学期 26 単位 (ただし、専攻科研究、専攻科実習、学外実習、実践工学演習を除く)
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <http://www.numazu-ct.ac.jp/college/map>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	機械工学科	234,600 円	84,600 円	8,400~9,600 円	寄宿料 8,400~9,600 円 (寮生のみ)
	電気電子工学科				
	電子制御工学科				
	制御情報工学科				
	物質工学科				
	専攻科 総合システム工学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学内に「学習サポートセンター」を設置し、授業でわからなかったところを相談教員に気軽に質問したり、学生同士で教え合いながら課題を解決したりできる場としている。 また、学生が授業でわからないことや学生生活を送る上での相談などを受けるために、教員が在室し学生からの相談を受けられる時間帯（オフィスアワー）を全教員が定めている。 高等教育の修学支援新制度による授業料免除について、日本学生支援機構給付奨学金の区分が確定するまでの間、授業料の徴収を猶予している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要) 【キャリア教育・就職指導】 ・「キャリア支援室」を中心に低学年から、各学年に応じたキャリア教育を実施している。4年生で参加するインターンシップおよび実際の就職活動につながるように内容を工夫している。 ・インターンシップ先企業を検討するため、3年生を対象とした静岡新聞社主催（本校共催）のインターンシップ企業説明会を開催している。 ・就職を目前に控えた学生は、企業研究の場の提供として静岡新聞社主催（本校共催）の「就職祭」に参加している。 ・ハローワーク沼津の就職支援ナビゲーターと協同して、職業適性検査・キャリアカウンセリングに学生の相談に応じた就職支援を実施している。ほか、応募書類添削や模擬面接を実施している。 ・各学科の就職担当教員・インターンシップ担当教員を中心に、企業情報・就職情報等の提供を充実させ、高い就職率を維持している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 前期には全学年を対象に「高専生活に関するアンケート」を実施し、希死念慮等のリスクを把握し、カウンセリングや外部医療機関につなげるなど適切な対応を取っている。5年生を対象にメンタルヘルスの講演会を実施している。1年生にはいじめ防止、2年生には薬物乱用等に関する特別講演を行うとともに、後期には全学年を対象に「学生生活アンケート」を実施し、学生を取り巻く諸問題の兆候の早期把握に務めている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：http://www.numazu-ct.ac.jp/college/disclosure/education
備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。